

津波被害に備える

第3回津波検討委員会

11月17日（木）、3回目となる津波対策検討委員会が開催されました。

検討委員会には、井村隆介委員長（鹿児島大学大学院准教授）をはじめ、22名の委員が出席しました。

これまでの検討委員会では、津波対策の現状と課題が抽出され、標高表示や避難経路、ハザードマップの必要性など協議が行われてきました。



▲第3回津波検討委員会

これらを踏まえ、津波に対する日ごろの備えを住民に促し、迅速な避難につなげるため、町内24か所に設置した標高表示板の概要が報告されました。

また、今後新たに20か所の新設について委員会で承認されました。

今回の検討委員会では、津波対策の中でも特にハザードマップ作成等の避難体制の確保に焦点をあて、各種対策を検討しました。

委員からは、ハザードマップの作成にあたり液化化現象が想定される危険箇所や学校、病院などを盛り込むことなどの要望がありました。



▲今回設置された標高表示板
《大丸地区農業構造改善センター》